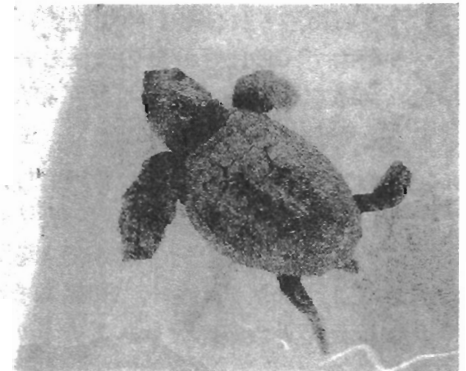




## 第6回沖縄エコツアー(沖縄県本部町備瀬崎) 8/25 ~ 8/28

### 初体験、絶滅危惧種「アカウミガメの赤ちゃん誕生を見守ったよ」

今夏は、初めて8月に実施。真夏の沖縄自然界の新しい発見ができ、さらに、内容の濃い ツアーとなった。参加者 15名。  
以下、参加者のふりかえりの感動記録の一部である。



《生まれて間もない子ガメが生きてするために必死に沖(光)に向かっていく》大学4年 A

あさ、突然6時半に、昨夜の話にあった海ガメの孵化が見られるということで、意識もはっきりしないまま、～目的の場所に到着しました。子どもの海ガメが出てくるのを待っていたら、生まれて間もない子ガメが生きてするために必死に沖(光)に向かっていく姿にすごく感動しました。言葉に表せないものをその時感じることができました。～体験することのすごさを思い知りました。

…2ページへつづく▶…

### 初めてネイチャーゲームを体験して— センスオブアース・日本女子大学教育学科共催 ネイチャーゲーム指導者講習会

7月29日～31日の3日間、日本女子大学西生田キャンパス内で行われたネイチャーゲームリーダー養成講座に参加しました。ネイチャーゲームとは、五感を使って自然を直接体験する活動です。日常生活では体験できないような自然とのふれあいができるということで、期待して講座に臨みました。

様々なアクティビティの中で最も印象に残ったのは、「目かくし歩き」という活動です。これは、2人ずつペアになってお互いに目かくしした相手を自然の中に案内するという活動です。このアクティビティを通して、私はい



日本女子大生田キャンパスの広大な自然環境は格好の教室になりました

つもは見逃していた足の裏の土のやわらかさ、木のぬくもり、葉のにおい、たくさんの音を感じることができました。まるで自分も自然の一部になったかのように、嬉しくなりました。同時に、自分が普段いかに視覚に頼りきった生活をしているかを思い知りました。

…3ページへつづく▶…

《明りを頼りに海へ出ていく習性だから、人間が夜に明かりを〜》 大学1年 S

ウミガメの赤ちゃんが砂から出てくる瞬間を見ることができたのも貴重な体験だった。明りを頼りに海へ出ていく習性だから、人間が夜に明かりをつけているせいで赤ちゃんが死んでしまうという説明を聞き、環境と人間の活動のバランスを改めて考えさせられる出来事だった。



《美しい海にも白化したサンゴがあり、その周辺に生きものを見かけ》 大学4年 R

サンゴの周りには多くの生物がいて、沖縄ならではの自然を感じることでできたと思います。その中で印象に残ったのは美しい海の中にも白化したサンゴが多くあり（注 98年以来、温暖化のため本島のサンゴは多く死滅した）、その周辺に生きものを見かけることができませんでした。このことからサンゴを失うことで、生物の生活に支障が出ている現状を実感することができました。

《海岸で昨年、植樹した木を見ました》 大学4年 E

今日の活動で一番印象に残ったのは、海岸でのゴミ拾いです。～自然を守る人がいれば自然を汚す人もいる中で私は自分で何ができるのかよく考えていきたいと思いました。また、海岸で去年植樹した木（注 クワデイサー 和名モモタマナを6本植樹）を見ました。しっかり育ってくれていて、それが地元の人たちに守られているからだを知り、自然と人の共存ができる社会になればいいなと思いました。

《感知行は一番の学びだった》 大学1年 A

この4日間は、本当にあっという間で、一日一日が私の大切な思い出です。一言でいえば「楽しい」につきます。しかし、学んだこともたくさんあります。その中でも、「感知行」が一番の学びだったと思います。「感じ、知り、行う」ーこの三原則は今後の私のテーマの一つになると思いました。

《こんなに信用してもらって大丈夫なのだろうか》 大学1年 K



夕方から、バーベキューの準備を開始。地元のお店のフクギ屋の奥様とご主人にスゴク助けていただいた。～とても楽しかった。そして、沖縄の人々の心の広さ、温かさに触れた。借りた器具

を洗うのに厨房を貸してくれ、そこで洗っていたら、お店の方の食器や灰皿洗いを任せられ（！）洗い物をした。こんなに信用してもらって大丈夫なのだろうか・・・と思うくらい、皆さんがおおらかで気持ちが温かくなった。他ではあまり味わえない感覚だった。

《一部の人間だけが〜ゴミ拾いをすることは、意味があるのか？環境問題を止められるのか？》 大学1年 B

きれいな魚がずっといてくれるように自分ができる最低限のことをしたいと感じました。しかし、自分やNGOの人々など環境を思う世界の一部の人間だけが取り組んだり、ゴミ拾いをすることは、意味があるのか？環境問題を止められるのか？疑問に思いました。実際は問題が進んでいます。～これからは、環境問題に興味がなかった人々に何らかの形で関心を持てるように学生の中など広めていくことが重要だそうです。



《この4日間の中で自分は環境への考え方が変わった。》 専門学生 2年 D

これらの自然はこれからも受け継いでいかねばならないものだと感じた。この4日間の中で自分は環境への考え方が変わった。特に印象に残っているのは、「自分が住んでいる土地が好きだからキレイに保とうと努力する」ということである～一番最後にはこれに行き着くのかなと思う。～自分もこの経験を生かして、自分が住んでいる地域、日本、そして地球を好きになれるように努力したい。



沖縄の海で、カヌーや、シュノーケルを体験しました。



また、西生田のキャンパス内にこのような自然が残っていることを改めてありがたく感じ、今後も大切に守っていきたいと思いました。

自然の中で暮らす生き物たちの声に耳を傾け、自然と一体になるという貴重な体験ができた3日間でした。(日本女子大学4年 大澤映理)

ネイチャーゲーム指導者講習会



「仲間と自然に触れ合おう。」ネイチャーゲームで私が一番感じたことは一人ではなく誰かと、色々な人と自分が感じたことを分かち合う

ことの楽しさである。

7月下旬の一番暑いころに、緑豊かな西生田キャンパスでネイチャーゲーム講習会は行われた。ネイチャーゲームは4段階のフローリングとなっており、それぞれに目的がある。私が今回参加して一番印象に残っているのは「動物交差点」というアクティビティだ。というのも、色々な学年・学科の学生が集まり参加したため「動物交差点」は仲間と知り合う、よいきっかけとなったからである。「動物交差点」は自分の背中につけられた生き物を、周囲の人たちに質問しながらあてるゲームである。仲間と挨拶を交わしながら、自分の動物の情報を置き、相手の動物の情報を考えていくため子どもはもちろん、大人でも楽しめるものであった。まだ名前もよくわからない同士であっても、ゲームという名目があるため皆気張らずに



積極的に多くの人と交われるというのが、とても魅力的に感じた。このアクティビティを通して、一緒に参加する皆が打ち解けた雰囲気になり、その先へとつなげることができたのだと思う。これからも分かち合うことの楽しさを忘れずに大切にしていきたい。(日本女子大学4年岩原あゆみ)

初めて経験するネイチャーゲームはどれも楽しく、三日間を通して様々なネイチャーゲームを体験しました。特に印象に残っているのは「マイクロハイク」というものです。これは、腹ばいになって顔を地面に近づけ、虫眼鏡を通して普段足下に広がるミクロの世界を探検するゲームです。私は、モミジの木の下の苔の生えた地面に腹



ばいになってマイクロハイクを始めました。腹ばいになって顔を地面に近づけて虫眼鏡を見ることに最初は多少抵抗があったのですが、しだいにそのことも気にならなくなり地面に寝そべる感覚がとても心地よくなっていました。虫眼鏡を通して見るミクロの世界は、私が想像していたものとは大きく異なっていました。私たちから見れば小さな草や苔がまるでジャングルのように生い茂り、その中をアリが必死に進んでいるのです。そのアリを追うように少しずつ虫眼鏡を動かしていくと、アリの視点でこのミクロの世界を探検することができました。

何気なく歩いている地面も視点を変えればたくさんの発見がありました。足下には別の世界が広がっているのだと思うと少しわくわくします。(日本女子大学4年 鈴木亜由美)

## ● S.O.E. 活動報告 (2009年7月)

日	曜	内 容
1	水	第6回沖縄エコツアー最終申し込み確認 航空券追加申し込み
3	金	第2回ネイチャーゲーム指導者講習会の説明会開催 日本女子大学にて
7	火	横浜市地球温暖化対策事業部吉田課長取材-NPO活動資金、「基金条例」など
9	木	NPOソフトエネルギープロジェクトの活動取材-太陽光発電の普及など
12	日	SOEワークショップ・ニュース発行作業
17	金	SOEと日本女子大教育学科共催ネイチャーゲーム指導者講習会参加者締め切り27名応募
26	日	SOEワークショップ
29	水	ネイチャーゲーム講習会実施。【～31日まで】 毎日9時～5時30分指導者 峰岸由美子さん

## ● S.O.E. 活動報告 (2009年8月)

7	金	SOE主催 日本女子大学の現役教師との交流会 10～12
23	日	SOEアサー交流会3～
25	火	第6回沖縄エコツアー実施 (～28日まで)

編集後記●夏休みも明けて今号からまた、月一回のペースでニュースをお届けします。よろしくお祈りします。短かった今年の夏、皆さんはいかがお過ごしでしたか。私は、東京から一歩も出ず、もっぱらロイヤルガーデンで、アロハシャツの店員を眺めつつ夏を満喫していました。もうすぐ秋、月見で一杯…ではなく、野鳥観察の季節がやってきます。センスオブアースでも観察会のご案内をしていきますので、お楽しみに。(M)

### 発行

特定非営利活動法人 センスオブアース・市民による自然共生パンゲア

東京事務所 東京都板橋区前野町4-8-6 (〒174-0063) phone: 03-3960-6052 fax: 03-3960-6053  
e-mail: info@npo-soe.jp url: www.npo-soe.jp